

オウサマペンギンの雛が2羽誕生しました！

～「南極大陸」水槽で子育ての様子をご覧ください～

海遊館（大阪市港区）で、2023年8月11日（金）と9月3日（日）に、オウサマペンギンの雛が2羽誕生しました。2羽ともに「南極大陸」水槽で過ごしており、愛らしい姿をご覧ください。

1羽目の雛は、国内飼育個体が減少傾向にある本種の「種の保存」に貢献する取り組みとして、葛西臨海水族園（東京都江戸川区）で得られた受精卵を海遊館へ輸送し、8月11日（金）に孵化しました（詳細後述）。孵化後は「南極大陸」水槽で暮らしているペアが仮親（親代わり）となり、子育てをしています。

残る1羽は海遊館で飼育展示しているペアが産卵した受精卵から、9月3日（日）に孵化しました。孵化後は「南極大陸」水槽で親鳥が子育てをしています。

雛たちの成長は順調で、「南極大陸」水槽では親鳥、仮親が口移しで雛に餌を与えるなど、子育ての様子をご覧ください。

海遊館は、雛と子育ての様子をご覧ください。生命誕生のすばらしさを感じていただければと考えています。



1羽目のオウサマペンギンの雛（9月19日撮影）



2羽目のオウサマペンギンの雛（9月19日撮影）

【取材・素材提供について】

毎朝行っている、雛の体重測定をご撮影いただけます。
取材・素材提供をご希望の際は、下記までご連絡ください。

海遊館 広報チーム (06-6576-5529)



参考：過去の体重測定の様子

【 今回孵化した雛について 】

	産卵日	孵化日	体重	
			出生直後	9月19日時点
1羽目	2023年6月16日	2023年8月11日	171.9g	4.2kg
2羽目	2023年7月6日	2023年9月3日	210.0g	706g

【 オウサマペンギン繁殖の取り組みについて 】

海遊館と葛西臨海水族園は、ミナミイワトビペンギンを中心にペンギン類の繁殖生態の解明、人工繁殖技術の確立等を目的とした共同研究に取り組んでいます。

今回、共同研究の一環で、葛西臨海水族園で得られたオウサマペンギンの受精卵を、新幹線を利用して海遊館へ輸送し、孵化させました。受精卵輸送は生体の移動と比較し、移動がペンギンに与える負担の軽減、検疫期間や検疫中の飼育スペース確保を必要とせず、新たな血統個体を導入できる等の利点がありますが、オウサマペンギンではマニュアル化された受精卵輸送技術がありません。受精卵輸送技術の向上が、本種の「種の保存」に繋がると考えています。

【 オウサマペンギンについて 】

英名 : King penguin

学名 : *Aptenodytes patagonicus*

南極大陸周辺地域に生息。ペンギン目の中で2番目に大きなペンギンで、体長約90cm、体重約12kg程に成長する。海遊館では今回の雛を含め計47羽の雛が誕生しています。



オウサマペンギン (成鳥)